

麦山 亮太 Ryota MUGIYAMA

学習院大学法学部政治学科

171-8588 東京都豊島区目白 1-5-1

Mail: ryota.mugiyama@gakushuin.ac.jp Phone: +81-3-5904-9253

研究者番号: 90895913 ORCID: [0000-0002-6157-5575](https://orcid.org/0000-0002-6157-5575)

最終更新: 2026/9/2

経歴

職歴

2026 年 4 月– 学習院大学法学部政治学科・教授

2021 年 4 月–2026 年 3 月 学習院大学法学部政治学科・准教授

2019 年 4 月–2021 年 3 月 日本学術振興会特別研究員 PD (一橋大学経済研究所)

2017 年 4 月–2019 年 3 月 日本学術振興会特別研究員 DC2

学歴

2019 年 3 月 東京大学大学院人文社会系研究科 社会文化研究専攻 社会学専門分野博士課程修了, 博士 (社会学)

2016 年 3 月 東京大学大学院人文社会系研究科 社会文化研究専攻 社会学専門分野修士課程修了, 修士 (社会学)

2014 年 3 月 東京大学文学部 行動文化学科 社会学専修課程卒業, 学士 (文学)

資格

専門社会調査士 (第 A-000493 号, 2016 年 6 月 1 日)

社会調査士 (第 025486 号, 2016 年 6 月 1 日)

受賞歴

日本人口学会 第 18 回優秀論文賞 (打越文弥との共同受賞), 2022 年 6 月.

数理社会学会 第 13 回数理社会学会論文賞, 2020 年 10 月.

日本社会学会 第 17 回日本社会学会奨励賞・論文の部, 2018 年 9 月.

The RC28 Travel Awards at the 19th ISA World Congress, “Aage B. Sørensen Award.” July, 2018.

平成 28 年度 公益社団法人程ヶ谷基金 男女共同参画・少子化に関する研究活動の支援及びこれに関する顕彰事業 論文部門優秀賞, 2016 年 12 月.

資金獲得歴

- 日本学術振興会・基盤研究 (B) 「統合社会調査データを用いたジェンダー不平等と階層化の趨勢と実態に関する実証研究」 (研究代表。研究分担：コンアラン・豊永耕平・吉田航) (課題番号：26K00409, 24,830,000 円), 2026 年 4 月–2030 年 3 月.
- 一般財団法人櫻田會政治研究助成「統合社会調査データによる日本社会の機会の不平等の長期的変容の解明」 (500,000 円), 2026 年 2 月–2027 年 3 月.
- 公益社団法人日本経済研究センター研究奨励金「女性の就業継続の意思決定に対する望ましい母親規範の効果検証」 (研究代表：森川ゆり子、研究分担：麦山亮太・那須蘭太郎) (900,000 円), 2026 年 4 月–2027 年 3 月.
- 学習院大学計算機センター特別研究プロジェクト「女性の就業行動及び就業意欲に対する望ましい母親規範の効果検証」 (研究代表。研究分担：那須蘭太郎・森川ゆり子) (1,000,000 円), 2026 年 4 月–2027 年 3 月.
- 公益財団法人トヨタ財団 2024 年度特定課題助成「人口減少と日本社会」「地方自治体における少子化対策の再検討：人口学的分析と実験によるアプローチ」 (研究代表：打越文弥、研究分担：麦山亮太・山岸敦・ガニョンエティエン・井上ちひろ・石幡祐輔・杉本遙) (7,000,000 円), 2025 年 5 月–2027 年 4 月.
- 公益財団法人日本世論調査協会 第 2 回研究者と日本世論調査協会の共同調査「少子化対策の有効性とワークライフバランスに関する世論調査」 (研究分担。研究代表：打越文弥) (800,000 円), 2024 年 5 月.
- 公益社団法人日本経済研究センター研究奨励金「高等教育機関の立地の偏りと進学機会のジェンダー不平等」 (研究代表。研究分担：豊永耕平) (1,000,000 円), 2023 年 4 月–2024 年 3 月.
- 安倍能成記念教育基金学術研究助成金「大規模社会調査データの合併による二次分析の刷新」 (500,000 円), 2023 年 4 月–2024 年 3 月.
- 一般財団法人櫻田會政治研究助成「日本における女性の学歴と就業の関連の変化とその帰結」 (500,000 円), 2023 年 4 月–2024 年 3 月.
- 日本学術振興会・若手研究「現代日本の不平等生成における職業の役割に関する実証研究」 (課題番号：21K13439, 4,810,000 円), 2021 年 4 月–2026 年 3 月.
- 日本学術振興会・特別研究員 PD「職業経歴からみる階層構造と階層生成メカニズムの再検討」 (課題番号：19J00197, 4,810,000 円), 2019 年 4 月–2021 年 3 月. (中途辞退)
- The 19th ISA World Congress Registration Grants (120 US\$), July, 2018.
- 第 63 回数理社会学会大会トラベルグラント (30,000 円), 2017 年 3 月.
- 日本学術振興会・特別研究員 DC2「無業経験の長期的影響にみる格差生成プロセスの男女比較研究」 (課題番号：17J02556, 1,000,000 円), 2017 年 4 月–2019 年 3 月.
- 第 62 回数理社会学会大会トラベルグラント (30,000 円), 2016 年 8 月.

査読付き論文

English

- Mugiyama, Ryota and Kohei Toyonaga. 2026. “[Changing Regional University Availability and Inequality of Educational Opportunity in Japan](#).” *European Sociological Review*. Advance access.
- Replication code is available on [OSF](#).
 - [Press release \(in Japanese\)](#)
- Çineli, Beyda and Ryota Mugiyama. 2026. “[Does More Egalitarian Ideology, Foster More Egalitarian Household Work Division? Marriage, Work and Family Life in Japan](#).” *Journal of Family Issues*. Advance access.
- Uchikoshi, Fumiya*, Ryota Mugiyama*, Shohei Yoda, and James M. Raymo. 2026. “[Revisiting the Relationship between Marriage and Childbearing in East Asia: The Role of Fertility Desires in Japan](#).” *Population and Development Review*. 52(1): 167–200.
- *Equal contribution.
- [Accepted manuscript](#)
 - [Press release \(in Japanese\)](#)
- Mugiyama, Ryota and Kyoko Komatsu. 2026. “[More Than Usage: Expanded Socioeconomic Inequality in Access to Remote Work After COVID-19 in Japan](#).” *Socio-Economic Review*. 24(1): 477–504.
- [Press release \(in Japanese\)](#)
- Mogi, Ryohei*, Ryota Mugiyama*, and Alyce Raybould*. 2025. “[Exposure to Non-partnership and Fertility Desires among the Childless Population in Japan](#).” *Social Forces*. Advance access. *Equal authorship.
- Replication code is available on [GitHub](#).
 - [Press release \(in Japanese\)](#)
 - [Press release \(in English, Catalan, and Spanish\)](#)
- Mugiyama, Ryota. 2025. “[Decomposing Delayed First Marriage and Birth Across Cohorts: The Role of Increased Employment Instability Among Men in Japan](#).” *Demographic Research*. 52:635–688.
- Replication code is available on the journal page.
- Mugiyama, Ryota. 2024. “[Disaggregating the Relationship Between Precarious Employment and Delayed Marriage in Japan: Incorporating Non-Cohabiting Partnership](#).” *Social Science Research*. 124: 103093.
- [Accepted manuscript](#)
- Mogi, Ryohei, Ryota Mugiyama and Giammarco Alderotti. 2024. “[Employment Conditions and Non-Coresidential Partnership in Very Low Fertility Countries: Italy and](#)

Japan.” *Journal of Family Research*. 36: 160–177.

- Replication code is available on the journal page.

Mugiyama, Ryota. 2024. “Cohort Change in the Educational Gradient in Women’s Employment Around Childbirth in Japan.” *Research in Social Stratification and Mobility*. 89: 100885.

Çineli, Beyda and Ryota Mugiyama. 2023. “Money Management over the Course of Marriage: Parenthood, Employment and Household Financial Organization in Japan.” *Advances in Life Course Research*. 56: 100544.

Igarashi, Akira and Ryota Mugiyama. 2023. “Whose Tastes Matter? Discrimination against Immigrants in the Japanese Labour Market.” *Journal of Ethnic and Migration Studies*. 49(13): 3365–3388.

Mugiyama, Ryota and Kohei Toyonaga. 2022. “Role of Cohort Size in Trends in Class and Occupational Returns to Education at First Job: The Case of Japan.” *European Sociological Review*. 38(2): 269–285.

Japanese

小松恭子・麦山亮太, 2026, 「日本の労働市場におけるタスク分布の変化と要因：1980～2020年における産業構造の変化と ICT 導入の影響」『日本労働研究雑誌』 792: 100–114.

麦山亮太・大里蒼一郎, 2024, 「地域の図書館普及が子どもの学習時間に与える影響とその階層差」『理論と方法』 39(1): 19–34.

麦山亮太・田上皓大, 2024, 「SSM 職業分類への日本版 O-NET のマッチングと応用：スキルと賃金の関連を事例に」『理論と方法』 39(1): 64–76. (研究ノート) [SSM-ONET 対応表へのリンク](#)

五十嵐彰・麦山亮太, 2023, 「サーベイ実験を用いた日本における外国人雇用差別の検証：企業属性による異質性」『理論と方法』 38(1): 44–58.

麦山亮太・小松恭子, 2023, 「テレワーク制度適用の企業規模・雇用形態間格差の要因：新型コロナウイルス感染症流行前後の比較分析」『日本労働研究雑誌』 754: 87–102. (研究ノート)

麦山亮太, 2022, 「出産・育児期における女性就業とその学歴差の長期趨勢：雇用労働力化に着目して」『社会学評論』 73(2): 86–102. 補足表

打越文弥・麦山亮太・小松恭子, 2021, 「職域分離とスキルからみる労働市場のジェンダー格差：日本版 O-NET・国勢調査マッチングデータから得られる示唆」『理論と方法』 36(1): 65–82. (特集論文)

打越文弥・麦山亮太, 2020, 「日本における性別職域分離の趨勢：1980–2005 年国勢調査集計データを用いた要因分解」『人口学研究』 56: 9–23.

- 日本人口学会 第 18 回優秀論文賞

麦山亮太・西澤和也, 2017, 「大企業と中小企業が新卒者に求める能力は異なるか：求人情報サ

- イトへのトピックモデルの適用」『理論と方法』32(2): 214–227.
- 麦山亮太, 2017, 「職業経歴と結婚への移行：雇用形態・職種・企業規模と地位変化の効果における男女差」『家族社会学研究』29(2): 129–141.
- 日本社会学会 第 17 回日本社会学会奨励賞・論文の部
- 麦山亮太, 2017, 「キャリアの中断が生み出す格差：正規雇用獲得への持続的影響に着目して」『社会学評論』68(2): 248–264.
- 数理社会学会 第 13 回数理社会学会論文賞
- 麦山亮太, 2016, 「結婚は職業キャリアにいかなる影響を与えるのか？：無業・管理職への移動に関する男女比較分析」『家族社会学研究』28(2): 122–135.
- 平成 28 年度 公益社団法人程ヶ谷基金 男女共同参画・少子化に関する研究活動の支援及びこれに関する顕彰事業 論文部門優秀賞

その他出版物

書籍の一部

- 麦山亮太, 2023, 「男性の職業・家族キャリア」日本家族社会学会監修『家族社会学事典』丸善出版, 460–461.
- 打越文弥・麦山亮太, 2022, 「性別職域分離」数理社会学会監修『数理社会学事典』丸善出版, 330–333.
- 麦山亮太・吉川裕嗣, 2015, 「東アジアの学生の意識にみるアジア統合の展望：アジア人意識と脅威認識を軸として」園田茂人編『アジア比較社会研究のフロンティア III 連携と離反の東アジア』勁草書房, 231–255.

査読なし論文・書評・紹介など

- 打越文弥・麦山亮太, 2025, 「少子化対策の有効性とワークライフバランスに関する世論調査」『日本世論調査協会報「よろん」』136: 4–14.
- 麦山亮太, 2025, 「職業とタスクからみる仕事内容のジェンダー格差」『季刊個人金融』20(3): 69–80.
- 麦山亮太, 2024, 「社会階層研究の現在：労働関連分野を中心に」『日本労働研究雑誌』765: 78–83.
- 麦山亮太, 2022, 「文献紹介 渡邊勉・吉川徹・佐藤嘉倫編『少子高齢社会の階層構造 2 人生中期の階層構造』」『家族社会学研究』34(2): 152.
- Komatsu, Kyoko and Ryota Mugiyama. 2022. “Trends in Task Distribution in Japan, 1990–2015: Evidence from the Occupational Information Network of Japan and the Population Census Data.” *Japan Labor Issues*. 37(6): 55–70.
- 麦山亮太, 2021, 「地位の経歴からみる不平等の生成過程」『理論と方法』36(2): 4–15.

麦山亮太, 2018, 「[文献紹介 吉川徹著『日本の分断：切り離される非大卒若者たち』](#)」『家族社会学研究』30(2): 270.

報告書・Working Paper

* 査読付き論文等として出版済の報告書論文や Working paper は順次削除します。

麦山亮太・平松誠・コンアラン・那須蘭太郎・吉田航, 2025, 「[社会調査データの合併による二次分析研究の刷新：データ合併の作業手順と今後の調査実施に向けた示唆](#)」*SSJ Data Archive Research Paper Series*, No.96.

勇上和史・張楚・小松恭子・麦山亮太, 2025, 「[タスク需要と若年者の労働移動：学歴とジェンダーの視点から](#)」*JILPT Discussion Paper Series*, 25-02.

Mugiyama, Ryota. 2024. “[Educational Differences in the Motherhood Penalty on Wage Trajectories in Japan: The Role of Loss of Experience](#).” *CSRDA Discussion Paper Series*. Center for Social Research and Data Archives, Institute of Social Science, the University of Tokyo. 87.

Mugiyama, Ryota, Aram Kwon, and Takahiro Tabuchi. 2024. “[Downward Mobility and Loneliness: The Consequence of Intergenerational Educational Mobility in Japan](#).” *CSRDA Discussion Paper Series*. Center for Social Research and Data Archives, Institute of Social Science, the University of Tokyo. 83.

小松恭子・麦山亮太, 2024, 「[付属資料 4 国勢調査と日本版 O-NET のマッチング](#)」労働政策研究・研修機構『タスクの日米比較からみた日本の労働市場の変化：日本版 O-NET と国勢調査（1980～2020 年）を使用した分析から得られた示唆』JILPT 資料シリーズ No. 280.

麦山亮太, 2022, 「[職業とタスクからみる仕事と賃金のジェンダー格差](#)」財務省財務総合政策研究所『仕事・働き方・賃金に関する研究会：一人ひとりが能力を発揮できる社会の実現に向けて 報告書』, 20–41.

Mugiyama, Ryota and Kohei Toyonaga. 2022. “Does Educational Expansion Weaken the Equalizing Power of College? Trends in Social Origin Differentials in Occupational Destination in Japan.” 竹ノ下弘久編『科学研究費補助金基盤研究（B）（18H00931）「家族と労働市場における階級，ジェンダー，エスニシティの相互作用と不平等の比較研究」研究成果報告書』42–72.

小松恭子・麦山亮太, 2021, 「[日本版 O-NET の数値情報を使用した応用研究の可能性：日本版 O-NET と国勢調査の職業マッチングデータを活用したタスクのトレンド分析](#)」*JILPT Discussion Paper*. 21(11): 1–48.

Uchikoshi, Fumiya, Ryota Mugiyama and Megumi Oguro. 2020. “[Still Separate in STEM? Trends in Sex Segregation by Field of Study in Japan, 1975–2019](#).” *Institute of Economic Research, Hitotsubashi University Discussion Paper Series A*, Institute of Economic Research, Hitotsubashi University. 710.

麦山亮太, 2018, 「[無業経験を通じた格差の生成：所得・賃金への持続的効果に着目して](#)」東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブセンター編『2016 年度課題公募型

- 二次分析研究会 就労・家族・意識の変化に関する研究 研究成果報告書』, 1–17.
- 麦山亮太, 2018, 「職業経歴の影響にみる高齢層の経済格差：所得と資産の規定要因に関する男女比較から」 阪口祐介編『2015 年 SSM 調査報告 6 労働市場 1』2015 年 SSM 調査研究会, 1–27.
- 麦山亮太, 2017, 「地位へのマッチングからみる賃金格差の生成過程：企業規模と雇用形態に着目して」 東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター編『2016 年度参加者公募型二次分析研究会 現代日本の格差と不平等に関するデータの二次分析 研究成果報告書』, 49–67.
- 清水亮・麦山亮太, 2017, 「インタビュー調査の概要：対象者・方法・倫理の検討」 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部社会学研究室『都市的居住環境とコミュニティ形成 II：大規模公営住宅における地域生活の諸相』2016 年度社会調査実習報告書, 3–9.
- 麦山亮太, 2016, 「企業間移動がその後の賃金に与える持続的影響：無業経由の有無と男女の違いに着目して」 東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブセンター編『2015 年度課題公募型二次分析研究会 パネルデータを活用した就労・家族・意識の関連性についての研究 研究成果報告書』, 41–57.
- 麦山亮太, 2015, 「在宅療養／施設居住にはたらく世帯構成と経済状況の影響：柏市介護保険レセプトデータを用いた計量分析」 安藤絵美子・目麻里子・黄銀智・長谷田真帆・松本博成・麦山亮太・荻野亮吾・木全真理・福井康貴『柏市における要介護高齢者の在宅療養継続に関する研究：家族関係と経済状況に着目して』 東京大学高齢社会総合研究機構, 11–28.
- 麦山亮太・沢津橋紀洋, 2015, 「外国人集住地域における正／負の接触経験」 東京大学人文社会系研究科・文学部社会学研究室『地域社会における多文化共生の現状と課題：「松本市の多文化共生に関するアンケート調査」の分析』2014 年度社会調査実習報告書, 14–20.
- 打越文弥・麦山亮太, 2013, 「高齢者への家族サポートの規定要因：綾部地区の比較から」 東京大学人文社会系研究科・文学部社会学研究室『人口減少時代の地域づくり IV：「元気な地域」を比較する』2012 年度社会調査実習報告書, 18–23.

メディア報道など

- 麦山亮太, 2023, 「仕事とジェンダー格差（全 9 回連載）」『日本経済新聞 経済教室：やさしい経済学』2023 年 9 月 8–21 日.
- 麦山亮太, 2018, 「どのようなキャリアを歩む人が結婚しやすい／しにくいのか?: 経時的なデータ分析で明らかにする」 *academist Journal*.

進行中のプロジェクト

Under review

- Mugiyama, Ryota and Aguru Ishibashi. “[Multigenerational Perspective on Trends in the Inequality of Educational Opportunity in Japan](#).” Revise and Resubmit at *European*

Sociological Review.

- Mugiyama, Ryota, Shin Okubo, Kota Toma, and Shigeki Matsuda. “[Family Policy Reform and Marriage and Fertility Intentions: A Factorial Survey Experiment among Never-Married and Childless Individuals in Japan.](#)” Revise and Resubmit at *European Journal of Population*.
- Mugiyama, Ryota. “[Gender Role Attitudes and Transition to Marriage and Parenthood in Japan.](#)” Revise and Resubmit at *Population Research and Policy Review*.
- Kwon, Aram* and Ryota Mugiyama*. “Intergenerational Educational Mobility and Subjective Social Status in Japan.” Revise and Resubmit at *Socius*. *Equal contribution.
- Sugimoto, Haruki, Fumiya Uchikoshi, Shohei Yoda, and Ryota Mugiyama. “Revisiting the Attitudinal Link between Marriage and Childbearing in Low-Fertility East Asia: Evidence from Japan.” Revise and Resubmit at *Demographic Research*.
- Mugiyama, Ryota. “[Beyond the Elite Class Ceiling: Heterogeneity in Social Origin Earnings Gaps in Japan.](#)”
- Toyonaga, Kohei and Ryota Mugiyama. “[Benefits, Costs, or Success? Disentangling the Effects of Information Provision on Parental Educational Expectations in Japan.](#)”

In preparation

- Mugiyama, Ryota. “Persistent Motherhood Wage Penalty Following First Birth: The Role of Changing Economic Selectivity Across Cohorts.”
- Mugiyama, Ryota and Aguru Ishibashi. “[When Father-Child and Mother-Child Association Diverge: Intergenerational Educational Mobility in 20th-Century Japan.](#)”
- Mugiyama, Ryota and Shin Arita. “Task Variety and Earnings: Evidence from PIAAC.”
- Mugiyama, Ryota, Rantaro Nasu, and Yuriko Morikawa. “Diverging Pathways: Pre-birth Endorsement of Gender Ideology and the Motherhood Penalty.”
- Mugiyama, Ryota and Hansol Lee. “The Bonus of Being Breadwinner: Male Marriage and Fatherhood Premium in Japan.”
- Mugiyama, Ryota and Fumiya Uchikoshi. “Can Educational Expansion and Delayed Family Formation Explain Occupational Gender Desegregation? Evidence from Harmonized Census Occupation Data in Japan, 1980-2020.”
- Ryohei Mogi*, Ryota Mugiyama*, Inhee Han*, Alyce Raybould*, Lisa Schmid*, and Jiajie Zhang*. “Dating market? Relationship between socioeconomic status and transitions between singlehood and non-coresidential partnership in Europe and East Asia.”
- Mogi, Ryohei, Yurie Momose, and Ryota Mugiyama. “Scar effect of bullying victimisation in school over romantic relationships, marriage, divorce, and first childbirth”
- Uchikoshi, Fumiya and Ryota Mugiyama. “Education Cost of Children and Family Inten-

tions and Desires: A Survey Experiment Approach Using Information Intervention.”

Data Projects

[Japanese Social Survey Data Harmonization Project](#), April 2023–

報告・発表

Conference presentation

*with review

*Mugiyama, Ryota, Rantaro Nasu, and Yuriko Morikawa. 2026. “Diverging Pathways: Pre-birth Endorsement of Intensive Mothering Ideology and the Motherhood Penalty.” *Research Committee of Social Stratification and Mobility (RC28) 2026 Summer Meeting*. New York University, New York, U.S. August 6, 2026. Oral presentation.

*Mugiyama, Ryota and Lee Hansol. 2026. “The Bonus of Being Breadwinner: Male Marriage and Fatherhood Earnings Premium in Japan.” *Research in East Asian Demography and Inequality (READI) 4th Meeting*, Chinese University of Hong Kong, Hong Kong. July 25, 2026. Oral Presentation.

*Mogi, Ryohei, Ryota Mugiyama, Han Inhee, Alyce Raybould, Lisa Schmid, and Jiajie Zhang. “Dating market? Relationship between socioeconomic status and transitions between singlehood and non-coresidential partnership in Europe and East Asia.” *Population Association of America 2026 Annual Meeting*. St. Luis, U.S. May 7, 2026. Oral presentation.

*Mugiyama, Ryota and Fumiya Uchikoshi. 2026. “Can Educational Expansion and Delayed Family Formation Explain Occupational Gender Desegregation? Evidence from Harmonized Census Occupation Data in Japan, 1980–2020.” *Population Association of America 2026 Annual Meeting*. St. Luis, U.S. May 9, 2026. Oral presentation.

麦山亮太, 2026, 「社会階層研究からみる計量社会学の現在」第 80 回数理社会学会大会『数理社会学事典』刊行記念シンポジウム, 日本大学, 2026 年 3 月 8 日, 口頭報告.

服部倅季・麦山亮太, 2026, 「高齢期における就業は孤独感を抑制するか: 固定効果モデルによる検証」第 80 回数理社会学会大会, 日本大学, 2026 年 3 月 8 日, ポスター報告.

山元玲夏・麦山亮太, 2026, 「スティグマが付与された地域に対する差別: 福島県産食品の購入に関するコンジョイント実験を用いた検証」第 80 回数理社会学会大会, 日本大学, 2026 年 3 月 7 日, ポスター報告.

麦山亮太・石橋拳, 2026, “Diverging Influences of Fathers and Mothers: Intergenerational Educational Mobility in 20th-Century Japan.” 第 80 回数理社会学会大会, 日本大学,

2026 年 3 月 7 日, 口頭報告.

*Mugiyama, Ryota and Aguru Ishibashi. 2026. “Intergenerational Educational Mobility in 20th Century Japan: Changing Roles of Mothers and Fathers?” *Research Committee of Social Stratification and Mobility (RC28) 1st Online Thematic Meeting*. Virtual. January 20. Oral presentation.

麦山亮太・石橋拳, 2025, 「20 世紀日本の世代間学歴移動: 母親と父親の影響力は変化したのか」第 98 回日本社会学会大会, 一橋大学, 2025 年 11 月 15 日. 口頭報告.

Mugiyama, Ryota. 2025. “Unpacking the Sources of Changes in the Motherhood Wage Penalty Following First Birth in Japan.” 第 35 回日本家族社会学会大会, 金城学院大学, 2025 年 9 月 7 日. 口頭報告.

Mugiyama, Ryota, Rantaro Nasu, and Yuriko Morikawa. 2025. “The Weight of Gendered Expectation: Pre-birth Endorsement of Intensive Mothering Ideologies and the Motherhood Penalty.” 第 79 回数理社会学会大会, 関西学院大学, 2025 年 8 月 28 日. 口頭報告.

*Mugiyama, Ryota and Aguru Ishibashi. 2025. “Intergenerational Educational Mobility in 20th Century Japan: Changing Roles of Fathers and Mothers?” *Research Committee of Social Stratification and Mobility (RC28) 2025 Summer Meeting*. UCLA, Los Angeles, U.S. August 7, 2025. Oral presentation.

*Mugiyama, Ryota. 2025. “Revisiting Motherhood Wage Penalty Following First Birth in Japan: Unpacking the Sources.” *Research in East Asian Demography and Inequality (READI) 3rd Meeting*, Yonsei University, South Korea. July 18, 2025. Oral Presentation.

*Mugiyama, Ryota and Shin Arita. 2025. “Worker’s Task Variety and its Earnings Returns Across Countries.” *Society for the Advancement of Socio-Economics 2025 Annual Meeting*. Montréal, Canada. July 10, 2025. Oral Presentation.

*Sugimoto, Haruki, Ryota Mugiyama, and Fumiya Uchikoshi. 2025. “Revisiting the Attitudinal Link between Marriage and Childbearing in Low-Fertility East Asia: Evidence from Japan.” *Population Association of America 2025 Annual Meeting*. Marriott Marquis, Washington, DC. U.S. April 10–13, 2025. Oral Presentation.

*Uchikoshi, Fumiya and Ryota Mugiyama. 2025. “The Cost of Raising Children and Family Intentions and Desires: A Survey Experiment Approach Using Information Intervention.” *Population Association of America 2025 Annual Meeting*. Marriott Marquis, Washington, DC. U.S. April 10–13, 2025. Oral Presentation.

*Kwon, Aram and Ryota Mugiyama. 2025. “The impact of intergenerational educational mobility on subjective social status: Evidence from Japan.” *Research Committee of Social Stratification and Mobility (RC28) 2025 Spring Meeting*. University of Milan, Milan, Italy. March 25–27, 2025. Oral Presentation.

小黒恵・打越文弥・麦山亮太・寺本えりか・豊永耕平, 2025, 「学校基本調査学科系統分類の国

- 際標準教育分類への再コーディング：STEM の女性割合を事例として」第 78 回数理社会学会大会，青山学院大学，2025 年 3 月 13 日．ポスター報告．
- 麦山亮太・大久保心・藤間公太・余田翔平・松田茂樹，2024，「少子化対策は未婚者の出生・結婚意欲を高めるか：未婚者への少子化対策の効果に関する要因配置実験（1）」第 97 回日本社会学会大会，京都産業大学，2024 年 11 月 10 日．口頭報告．
- 大久保心・藤間公太・麦山亮太・余田翔平・松田茂樹，2024，「未婚者の結婚・出生意欲への少子化対策の効果は学歴・教育意識により異なるか？：未婚者への少子化対策の効果に関する要因配置実験（2）」第 97 回日本社会学会大会，京都産業大学，2024 年 11 月 10 日．口頭報告．
- 松田茂樹・余田翔平・藤間公太・大久保心・麦山亮太，2024，「少子化対策によって結婚意欲と出生意欲が変化しやすいのはどのような人か？：未婚者への少子化対策の効果に関する要因配置実験（3）」第 97 回日本社会学会大会，京都産業大学，2024 年 11 月 10 日．口頭報告．
- 豊永耕平・麦山亮太，2024，「高等教育に関する情報提供は教育格差を縮小させるか？」第 97 回日本社会学会大会，京都産業大学，2024 年 11 月 10 日．口頭報告．
- Mugiyama, Ryota, and Shin Arita. 2024. "Range of Tasks: The Variation Among Workers and Earnings Returns Across Countries." 第 77 回数理社会学会大会，東北大学，8 月 30 日．ポスター報告．
- *Mugiyama, Ryota. 2024. "Educational Differences in Motherhood Penalty on Wage Trajectories in Japan." *Research Committee of Social Stratification and Mobility (RC28) 2024 Summer Meeting*. Brown University, Providence, U.S. August 6, 2024. Oral presentation.
- *Mugiyama, Ryota, Shin Okubo, Kota Toma, Shohei Yoda, and Shigeki Matsuda. 2024. "Does Policy Reform Affect Fertility and Marriage Desires of Never-married Childless People? A Factorial Survey Experiment in Japan." *Research in East Asian Demography and Inequality 2nd Meeting*. Peking University, China. July 29, 2024. Oral Presentation.
- Mugiyama, Ryota. 2024. "Educational Differences in Motherhood Penalty on Wage Trajectories in Japan." *Population Association of Japan 76th Annual Meeting*. Chuo University, Japan. June 9. Oral presentation.
- *Mugiyama, Ryota. 2024. "Locating the Upper Class Advantage: Differential Impacts of Social Origin on Earnings by Destination in Japan." *Research Committee of Social Stratification and Mobility (RC 28) 2024 Spring Meeting*, NYU Shanghai, China. May 18, 2024. Oral Presentation.
- *Shirahase, Sawako, Ryota Mugiyama, and Hiroshi Ishida. 2024. "Intergenerational Class Mobility across the Life Course in Japan." *Research Committee of Social Stratification and Mobility (RC 28) 2024 Spring Meeting*. NYU Shanghai, China. May 17. Oral Presentation.

- *Mugiyama, Ryota and Aguru Ishibashi. 2024. "Multigenerational Perspective on Trends in the Inequality of Educational Opportunity in Japan." *Population Association of America 2024 Annual Meeting*. Hyatt Regency Columbus, Columbus, Ohio, U.S. April 20, 2024. Oral Presentation.
- *Uchikoshi, Fumiya, Ryota Mugiyama, Shohei Yoda, and James M. Raymo. 2024. "Evaluating the East Asian Model of Low Fertility Hypothesis: Evidence from Japan." *Population Association of America 2024 Annual Meeting*. Hyatt Regency Columbus, Columbus, Ohio, U.S. April 18, 2024. Oral Presentation.
- *Mogi, Ryohei, Ryota Mugiyama, and Alyce Raybould. 2024. "Exposure to Nonpartnership and Fertility Desires Among the Childless Population in Japan." *Population Association of America 2024 Annual Meeting*. Columbus, Hyatt Regency Columbus, Columbus, Ohio, U.S. April 18, 2024. Oral Presentation.
- Mugiyama, Ryota. 2024. "Locating the Upper Class Advantage: Differential Impacts of Social Origin on Earnings in Japan." 第 76 回数理社会学会大会, 大阪大学, 2024 年 3 月 16 日. 口頭報告.
- 麦山亮太・松田茂樹・大久保心・藤間公太・余田翔平, 2024, 「いかなる少子化対策が未婚者の出生・結婚意欲を高めるか: 要因配置実験による検証」 第 76 回数理社会学会大会, 大阪大学, 2024 年 3 月 17 日. ポスター報告.
- 麦山亮太・豊永耕平, 2023, 「高等教育機関の立地変化と大学進学ジェンダー不平等」 第 96 回日本社会学会大会, 立正大学, 2023 年 10 月 9 日. 口頭報告.
- Uchikoshi, Fumiya, Ryota Mugiyama, and James M. Raymo. 2023. "Evaluating the East Asian Model of Low Fertility Hypothesis: Evidence from Japan." 第 33 回日本家族社会学会大会, 神戸大学, 2023 年 9 月 2 日. 口頭報告.
- Mugiyama, Ryota. 2023. "Increasing Educational Gradient: Cohort Changes in Women's Employment Around Childbirth in Japan." 第 33 回日本家族社会学会大会, 神戸大学, 2023 年 9 月 2 日. 口頭報告.
- 麦山亮太・豊永耕平, 2023, 「オンライン履歴書実験による新規大卒者への評価に関する研究 (2): ジェンダーと選抜度」 第 75 回数理社会学会大会, 愛知大学, 2023 年 8 月 26 日. ポスター報告.
- 豊永耕平・麦山亮太・下瀬川陽, 2023, 「オンライン履歴書実験による新規大卒者への評価に関する研究 (1): 調査デザイン」 第 75 回数理社会学会大会, 愛知大学, 2023 年 8 月 26 日. ポスター報告.
- *Kwon, Aram, Ryota Mugiyama, and Takahiro Tabuchi. 2023. "Downward Mobility and Loneliness: Consequences of Intergenerational Educational Mobility in Japan." *Research Committee of Social Stratification and Mobility (RC 28) 2023 Summer Meeting*. University of Michigan, U.S. August 15, 2023. Poster presentation.
- *Mugiyama, Ryota and Aguru Ishibashi. 2023. "Multigenerational Perspective on Trends in Inequality of Educational Opportunity in Japan." *Research Committee of Social*

- Stratification and Mobility (RC28) 2023 Summer Meeting*. University of Michigan, U.S. August 15, 2023. Oral presentation.
- *Mugiyama, Ryota and Kohei Toyonaga. 2023. “Changes in Geographic Accessibility to College and Inequality of Educational Opportunity in Japan.” *Research on East Asian Demography and Inequality 1st Meeting*, University of Tokyo, Tokyo, Japan. July 15, 2023.
- *Mogi, Ryohei, Ryota Mugiyama and Giammarco Alderotti. “Employment Uncertainty and Noncoresidential Partnership in Very Low Fertility Countries.” *Population Association of America 2023 Annual Meeting*. New Orleans, Louisiana, U.S. April 14, 2023. Poster Presentation.
- *Mugiyama, Ryota. “Rising Employment Uncertainty and Delayed Marriage and Parenthood: Cohort Analysis of Japanese Men.” *Population Association of America 2023 Annual Meeting*. New Orleans, Louisiana, U.S. April 14, 2023. Poster Presentation.
- Mugiyama, Ryota and Aguru Ishibashi. 2023. “Multigenerational Perspective on Trends in Intergenerational Educational Mobility in Japan.” 第 74 回数理社会学会大会, 筑波大学, 2023 年 3 月 8 日. 口頭報告.
- 麦山亮太・小松恭子, 2022, 「コロナ禍前後におけるテレワーク利用機会の階層間格差の拡大とその要因」第 95 回日本社会学会大会, 追手門学院大学, 2022 年 11 月 12 日. 口頭報告.
- 麦山亮太, 2022, 「雇用の不安定化と結婚出産の遅れ・再考：男性の経歴のコーホート比較」第 32 回日本家族社会学会大会, 2022 年 9 月 4 日, 日本女子大学. 口頭報告.
- 麦山亮太・豊永耕平, 2022, 「大学の地理的配置の変化と進学機会の不平等：出身階層による異質性を考慮して」第 73 回数理社会学会大会, 信州大学（オンライン開催）, 2022 年 8 月 28 日. 口頭報告.
- *Mugiyama, Ryota and Kohei Toyonaga. 2022. “Does Educational Expansion Weaken the Equalizing Power of College? Trends in Social Origin Differentials in Occupational Destination in Japan.” *Research Committee of Social Stratification and Mobility (RC 28) 2022 Summer Meeting*. University of Notre Dame, U.S. August 13, 2022. Oral presentation.
- *Mogi, Ryohei, Ryota Mugiyama and Giammarco Alderotti. 2022. “Employment Uncertainty and Having a Partner in Lowest-low Fertility Countries.” *Population Association of America 2022 Annual Meeting*. Atlanta, Georgia, U.S. April 6–9, 2022. Poster presentation.
- *Mugiyama, Ryota. 2022. “Decomposing Delayed Marriage among Non-regular Workers: The Role of Income and Job Quality in Partnership and Marriage Formation in Japan.” *Population Association of America 2022 Annual Meeting*. Atlanta, Georgia, U.S. April 6–9, 2022. Poster presentation.
- 麦山亮太・小松恭子, 2022, 「テレワーク実施可能性の格差は拡大したのか：COVID-19 前後の時系列比較分析」第 72 回数理社会学会大会, 東京大学（オンライン開催）, 2022 年 3

月 12 日, 口頭報告.

麦山亮太, 2021, 「なぜ非正規雇用者は結婚しにくいのか: 交際段階別にみた所得と仕事の質の役割」第 94 回日本社会学会大会, 東京都立大学 (オンライン開催), 2021 年 11 月 14 日, 口頭報告.

麦山亮太・田上皓大, 2021, 「SSM 職業分類と日本版 O-NET のマッチングとその応用: 賃金と健康との関連に着目して」第 71 回数理社会学会大会, 岩手県立大学 (オンライン開催), 2021 年 9 月 5 日, ポスター報告.

麦山亮太・豊永耕平, 2021, 「高学歴化は大学の平等化機能を弱めるのか: 大卒/非大卒における出身階層の直接効果の趨勢」第 71 回数理社会学会大会, 岩手県立大学 (オンライン開催), 2021 年 9 月 4 日, 口頭報告.

*Mugiyama, Ryota. 2021. “Why non-regular workers are less likely to get married? A test of economic independence, job qualities, and opportunities to meet.” *Research Committee of Social Stratification and Mobility (RC 28) Spring Meeting 2021*, Turku, Finland. June 2–4, 2021. Poster presentation.

*Shirahase, Sawako, Ryota Mugiyama, and Hiroshi Ishida. 2021. “Do the Impacts of Class Origin on Class Destination Persist throughout the Life Course? Gender Differences in Intergenerational Mobility in Japan.” *Research Committee of Social Stratification and Mobility (RC 28) Spring Meeting 2021*, Turku, Finland. June 2–4, 2021. Oral presentation.

五十嵐彰・麦山亮太, 2021, 「日本企業は外国人を差別しているか: サーベイ実験による検討」第 70 回数理社会学会大会, 慶應義塾大学 (オンライン開催), 2021 年 3 月 9 日, 口頭報告.

五十嵐彰・麦山亮太, 2021, 「履歴書実験において人事を対象にする必要はあるのか」第 70 回数理社会学会大会, 慶應義塾大学 (オンライン開催), 2021 年 3 月 8 日, ポスター報告.

麦山亮太, 2021, 「現代日本における世代内職業移動の趨勢: 労働力調査データの分析から」第 70 回数理社会学会大会, 慶應義塾大学 (オンライン開催), 2021 年 3 月 8 日, 口頭報告.

打越文弥・麦山亮太・小松恭子, 2020, 「職域分離とスキルからみる労働市場のジェンダー格差: 日本版 O-NET・国勢調査マッチングデータから得られる示唆」第 69 回数理社会学会大会, 慶應義塾大学 (オンライン開催), 2020 年 9 月 21 日, ポスター報告.

麦山亮太・白波瀬佐和子, 2019, 「出身階層の影響力の継続性に関する検討: 高齢層に着目して」第 92 回日本社会学会大会, 2019 年 10 月 5 日, 口頭報告.

麦山亮太, 2019, 「就業経歴類型からみる出産・育児期女性の働きかたの時代的变化とその要因分析」第 29 回日本家族社会学会大会, 神戸学院大学, 2019 年 9 月 14 日, 口頭報告.

Mugiyama, Ryota. 2019. “Dissecting the Returns to Job Mobility: The Role of Firm-boundary in the Consequence of Occupational Change in Japan.” 第 68 回数理社会学会大会, 熊本県立大学, 2019 年 8 月 30 日, 口頭報告.

*Shirahase, Sawako and Ryota Mugiyama. 2019. “The Impact of Class Origin throughout the Life Course.” *Research Committee of Social Stratification and Mobility (RC 28) Summer Meeting*, Princeton University, U.S. August 15, Oral presentation.

- *Mugiyama, Ryota. 2019. “Trends in Women’s Long-term Employment Trajectories around First Childbirth in Japan: Limited Role of Supply-side Change.” *Research Committee of Social Stratification and Mobility (RC 28) Summer Meeting 2019*, Princeton, U.S. August 15, Oral presentation.
- 打越文弥・麦山亮太, 2019, 「日本における性別職域分離の趨勢：人口高齢化の役割」第 71 回日本人口学会大会, 香川大学, 2019 年 6 月 1 日. 口頭報告.
- *Mugiyama, Ryota and Fumiya Uchikoshi. 2019. “Trend in Occupational Segregation by Gender in Japan: The Role of Population Aging.” *Population Association of America 2019 Annual Meeting*, JW Marriott Austin, U.S. April 12, 2019. Poster presentation.
- *Mugiyama, Ryota. 2019. “Long-term Effects of Job Change on Wage Growth in Japan: Moderating Role of Employment Status and Gender.” *Research Committee of Social Stratification and Mobility (RC 28) Spring Meeting 2019*, Goethe-Universität Frankfurt am Main, Germany. March 21, 2019. Poster presentation.
- *Mugiyama, Ryota and Kohei Toyonaga. 2019. “Association between Educational Attainment and Access to Service Class over Career in Japan: Decomposing into Professional and Managerial Jobs.” *Research Committee of Social Stratification and Mobility (RC 28) Spring Meeting*, Goethe-Universität Frankfurt am Main, Germany. March 21, 2019. Poster presentation.
- Mugiyama, Ryota. 2019. “Long-term Trends of Employment Trajectories among Women around First Childbirth.” 第 67 回数理社会学会大会, 立命館大学, 2019 年 3 月 7 日. ポスター報告.
- 麦山亮太・豊永耕平, 2019, 「キャリアを通じてみる学歴と上層ホワイト到達の関係：専門職と管理職の異質性を考慮して」第 67 回数理社会学会大会, 立命館大学, 2019 年 3 月 7 日. 口頭報告.
- 麦山亮太, 2018, 「職業経歴からみる転職経験の意味：転職者内の多様性を加味した縦断的分析」第 91 回日本社会学会大会, 甲南大学, 2018 年 9 月 16 日. 口頭報告.
- 麦山亮太, 2018, 「転職が賃金上昇に与える影響とそのメカニズム：職業と雇用形態の変化に着目して」第 66 回数理社会学会大会, 会津大学, 2018 年 8 月 30 日. 口頭報告.
- *Mugiyama, Ryota. 2018. “How Does Job Turnover Affect Subsequent Employment Instability? An Analysis of Inequality among Job Leavers in Japan.” *19th International Sociological Association World Congress of Sociology*. Metro Toronto Convention Center, Canada. July 18, 2018. Poster Presentation.
- 豊永耕平・麦山亮太, 2018, 「管理職獲得にみる学歴間格差の生成メカニズム」第 65 回数理社会学会大会, 成蹊大学, 2018 年 3 月 15 日. ポスター報告.
- 麦山亮太, 2018, 「転職経験からみる階層生成過程：管理職獲得への影響に着目して」第 65 回数理社会学会大会, 成蹊大学, 2018 年 3 月 14 日. ポスター報告.
- 打越文弥・麦山亮太, 2018, 「産業構造の変化からみる日本の性別職域分離の趨勢：国勢調査集計データを用いた計量分析」第 65 回数理社会学会大会, 成蹊大学, 2018 年 3 月 14 日.

口頭報告.

麦山亮太, 2017, 「職業キャリアの影響にみる高齢期の所得・資産の不平等: 2015 年 SSM 調査データを用いて」第 90 回日本社会学会大会, 東京大学, 2017 年 11 月 5 日. 口頭報告.

豊永耕平・麦山亮太, 2017, 「学歴の経済的便益はコーホートによって異なるか?: SSM2005, 2015, JGSS2012 を用いた分析」第 64 回数理社会学会大会, 札幌学院大学, 2017 年 9 月 18 日. ポスター報告.

麦山亮太, 2017, 「雇用の安定性にみる離職経験後のキャリア形成: 2015 年 SSM 調査データを用いて」第 64 回数理社会学会大会, 札幌学院大学, 2017 年 9 月 17 日. 口頭報告.

麦山亮太, 2017, 「失業率と離婚率の関係とその趨勢: 1950–2015 年都道府県パネルデータを用いた分析」第 27 回日本家族社会学会大会, 京都大学, 2017 年 9 月 10 日. 口頭報告.

麦山亮太, 2017, 「地位へのマッチングからみる賃金格差の生成過程: 正規/非正規雇用を事例として」第 63 回数理社会学会大会, 関西大学, 2017 年 3 月 14 日. 口頭報告.

Mugiyama, Ryota, 2016, “Cumulative Disadvantage Process in Japan: Does Employment and Marital History Affect Income and Wealth Inequality among Elderly People?” *IARU Aging, Longevity, and Health Initiative Graduate Student Conference and Committee Meetings*, University of Tokyo, November 3rd, 2016. Poster presentation.

麦山亮太, 2016, 「職業経歴が結婚への移行に与える影響」第 26 回日本家族社会学会大会, 早稲田大学, 2016 年 9 月 10 日. 口頭報告.

麦山亮太・西澤和也, 2016, 「新卒採用情報サイトにみる採用基準の異質性」第 62 回数理社会学会大会, 金沢大学, 2016 年 8 月 27 日. ポスター報告.

麦山亮太, 2016, 「入職時の失業経験が初期キャリアの不安定性に与える影響」第 62 回数理社会学会大会, 金沢大学, 2016 年 8 月 27 日. 口頭報告.

黄銀智・目麻里子・長谷田真帆・松本博成・安藤絵美子・麦山亮太・木全真理・福井康貴, 「経過的視点からみる要介護者の在宅療養継続要因の可視化の提案」第 74 回日本公衆衛生学会総会, 長崎新聞文化ホール, 2015 年 11 月 5 日. ポスター報告.

麦山亮太・目麻里子・木全真理・福井康貴, 2015, 「要介護高齢者の施設入所選択にはたらく世帯構成と経済状況の影響に関する計量分析」第 74 回日本公衆衛生学会総会, 長崎新聞文化ホール, 2015 年 11 月 5 日. ポスター報告.

Other Presentation

Mugiyama, Ryota, Rantaro Nasu, and Yuriko Morikawa. 2026. “Diverging Pathways: Pre-birth Endorsement of Gender Ideology and the Motherhood Penalty.” *2026 Annual Meeting of Life Course Transitions in East Asia: Education, Employment, and Family Formation*. October 10, 2026. Oral Presentation.

Mugiyama, Ryota and Aguru Ishibashi. 2026. “When the Father’s and Mother’s Influence Change: Intergenerational Educational Mobility in 20th-Century Japan.” *Social Stratification and Mobility Summer International Workshop*. July 17, 2026. Oral Presentation.

- Mugiyama, Ryota, Rantaro Nasu, and Yuriko Morikawa. 2025. "The Weight of Gendered Expectation: Pre-birth Endorsement of Intensive Mothering Ideologies and the Motherhood Penalty." *Social Stratification and Mobility Summer International Workshop*. June 28, 2025. Oral Presentation.
- Mugiyama, Ryota. 2025. "Gender-role Attitudes and Transition to Marriage and Parenthood in Japan." *2025 Annual Meeting of Life Course Transitions in East Asia: Education, Employment, and Family Formation*. June 14, 2025. Oral Presentation.
- Mugiyama, Ryota. 2025. "Unpacking the Sources of Changes in the Motherhood Wage Penalty Following First Birth in Japan." *Conference on Family Conflict and Dynamics in East Asia*. The University of Hong Kong, China. May 16, 2025. Oral Presentation.
- コンアラン・麦山亮太, 2025, 「世代間学歴移動が主観的階層意識に与える影響」東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター 2024 年度二次分析研究会課題公募型研究「社会調査データの合併による二次分析研究の刷新」成果報告会, 2025 年 3 月 21 日, オンライン報告.
- Mugiyama, Ryota and Aguru Ishibashi. 2025. "Intergenerational Educational Mobility in 20th Century Japan: Changing Roles of Fathers and Mothers?" 東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター 2024 年度二次分析研究会課題公募型研究「社会調査データの合併による二次分析研究の刷新」成果報告会, 2025 年 3 月 21 日, オンライン報告.
- 打越文弥・麦山亮太, 2025, "The Cost of Raising Children and Family Intentions and Desires Survey Experiment Approach Using Information Intervention." 日本世論調査協会 2024 年度研究大会, 2025 年 1 月 17 日, 口頭報告.
- Mugiyama, Ryota. 2024. "Expanding Socioeconomic Inequality in Access to Remote Work after COVID-19 in Japan." *Social Stratification and Mobility Winter International Workshop*. December 7, 2024. Oral Presentation.
- Mugiyama, Ryota. 2024. "Expanding Socioeconomic Inequality in Access to Remote Work After COVID-19 in Japan." *Lunchtime Seminar in Centre for Family and Population Research (CFPR) at National University of Singapore*. October 25, 2024. Online presentation.
- Mugiyama, Ryota. 2024. "Locating the Upper Class Advantage: Differential Impacts of Social Origin on Earnings in Japan." 東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター 2023 年度二次分析研究会課題公募型研究「社会調査データの合併による二次分析研究の刷新」成果報告会, 2024 年 3 月 19 日, オンライン報告.
- 麦山亮太, 2024, 「プロジェクトの概要とデータ構築の手順」東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター 2023 年度二次分析研究会課題公募型研究「社会調査データの合併による二次分析研究の刷新」成果報告会, 2024 年 3 月 19 日, オンライン報告.

- 小松恭子・麦山亮太, 2022, “Rising inequality in telework availability: Evidence from before and after the COVID-19 outbreak in Japan.” 関西労働研究会, 2022 年 12 月 16 日, オンライン報告.
- 麦山亮太・小松恭子, 2021, 「日本の労働市場におけるタスク分布のトレンド：日本版 O-NET と国勢調査のマッチングデータからの証拠」 *Seminar in Macroeconomics: Institute of Economic Research, Hitotsubashi University*. 2021 年 10 月 15 日, オンライン報告.
- Mugiyama, Ryota. “Why non-regular work delay marriage? A test of economic independence, job qualities, and opportunities to meet in Japan.” *University of Tokyo Center for Contemporary Japanese Studies Early-Career Scholar Forum*. June 4, 2021. Online presentation.
- 麦山亮太, 2021, 「なぜ非正規雇用者は結婚しにくいのか：経済的独立・仕事の質・出会いの機会」 2021 年 2 月 19 日, 東大社研パネルシンポジウム 2021, オンライン報告.
- Mugiyama, Ryota. 2019. “The Role of Contingent Employment in the Consequences of Job Mobility on Wage Trajectory.” *International Conference: Diverse Stories of Coming of Age among East Asians and Asian Americans*. Fraser Place Namdaemun Seoul, South Korea. June 8, 2019. Oral presentation.
- Mugiyama, Ryota. 2019. “Long-term Effects of Job Change on Wage Growth in Japan: Moderating Role of Employment Status.” *Conference of Quantitative Economics: Visitors and New Faces at IER and Hitotsubashi*. Hitotsubashi University, Japan. January 23, 2019. Oral presentation.
- Mugiyama, Ryota. 2018. “Changing Relationship between Interfirm Mobility and Occupational Career in Japan, 1956–2015.” *5th Joint Seminar on Asian Agenda for Young Scholars from China, Japan, & Korea*, Shanghai University, May 2–3, 2018. Oral presentation.
- 麦山亮太, 2018, 「転職を通じた職業的地位獲得の趨勢分析：機会構造とその時代的变化に着目して」 東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター 2017 年度二次分析研究会課題公募型研究「現代日本における格差・不平等の趨勢とメカニズムに関する研究」成果報告会, 東京大学, 2018 年 3 月 22 日.
- Suzawa, Shiori, Gota Yamaguchi, Akihiro Fujita, Kim Kyuwon, Ayako Baba, Wang Tiantian, Maho Haseda, Ryota Mugiyama, Emiko Ando, Mariko Sakka, Yasutaka Fukui, Mari Kimata, and Ikuko Sugawara. 2017. “Factors influencing a process for building intentions about a life of elderly people using home nursing care.” *APRU Workshop: Action Research for Age-Friendly Community*. University of Tokyo, November 9th, 2017. Poster presentation.
- 麦山亮太, 2017, 「無業経験を通じた格差の生成：所得・賃金への持続的効果に着目して」 東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター 2016 年度二次分析研究会課題公募型研究「就労・家族・意識の変化に関するパネルデータ分析」成果報告会, 東京大学, 2017 年 3 月 27 日.

- 麦山亮太, 2017, 「地位へのマッチングと賃金格差の生成過程：企業規模と雇用形態に着目して」東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター 2016 年度二次分析研究会参加者公募型研究「現代日本の不平等構造に関する二次分析」成果報告会, 東京大学, 2017 年 2 月 5 日.
- Mugiyama, Ryota, 2016, “The Effects of Non-employment at Labor Market Entry upon Subsequent Employment Instability in Japan,” *2016 UT-SNU Joint Sociological Forum*, University of Tokyo, November 14th, 2016. Oral presentation.
- 麦山亮太, 2016, 「キャリア形成プロセスにおける格差の男女比較研究：無業経験に着目して」家族問題研究学会 2016 年度第 1 回例会, 早稲田大学, 2016 年 5 月 21 日.
- 麦山亮太, 2016, 「企業間移動が賃金に与える影響に関する男女比較分析：無業期間の有無に着目して」東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター 2015 年度二次分析研究会課題公募型研究「パネルデータを活用した就労・家族・意識の関連性についての研究」成果報告会, 東京大学, 2016 年 3 月 20 日.
- Mugiyama, Ryota, 2016, “Attitude Mapping of Asian People toward Integration in Asia: Regional Similarities and Differences of Asian Identity and Threat Perception,” *International Workshop, Changing Attitudes of the Students and the Future of Asia: Analysis of Asian Student Survey Integrated Dataset*, University of the Philippines, February 26th, 2016. Oral Presentation.
- Mugiyama, Ryota and Hirotsugu Yoshikawa, 2015, “The Future of Integration in Asia: Analyses of Students' Asian Identity and Threat Perception,” *International Conference (RICAS Seminar), In Defence of Cultural Diversity of Asia: Analysis of Integrated Dataset of Asian Student Survey*, University of Tokyo, February 2015. Oral Presentation.
- Suzuki, Takashi, Yasuaki Morii, Ryota Mugiyama, and Keiichiro Nagashima, 2014, “Who Decides Your Career?: Asian Students’ Prospect for Job and Study,” *International Workshop, Understanding Cultural Diversity in Asia: Analysis of Second Wave of Asian Student Survey*, University of Tokyo, February 2014. Oral Presentation.

教育・社会貢献活動

教育歴

通常講義

- 学習院大学法学部政治学科「社会学 III, IV」, 2021 年 4 月–
- 学習院大学法学部政治学科「政治学科基礎演習 I, II」, 2021 年 4 月–
- 学習院大学法学部政治学科「社会学演習」, 2021 年 4 月–
- 学習院大学大学院政治学研究科「社会階層論」(旧「公共秩序の数理モデル」), 2021 年 9 月–
- 学習院大学大学院政治学研究科「統計分析 I」(分担担当) 2021 年 4 月–

招待講師

厚生労働省「厚生労働省統計研修」, 2025 年 6 月 9 日–2026 年 11 月 27 日.

東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター計量分析セミナー「R によるパネルデータ分析の実践」講師, 2026 年 9 月 8 日.

東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター計量分析セミナー「Stata によるパネルデータ分析の実践」講師, 2023 年 3 月 9 日, 2024 年 3 月 4 日, 2025 年 2 月 19 日.

東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター計量分析セミナー「Stata を用いた計量分析入門」講師, 2022 年 3 月 2 日, 2022 年 9 月 7 日, 2023 年 9 月 5 日, 2024 年 9 月 4 日, 2025 年 9 月 2 日.

東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター計量分析セミナー「Stata による計量分析の実践」講師, 2021 年 8 月 31 日.

非常勤講師

津田塾大学総合政策学部「社会階層論」非常勤講師, 2022 年 11 月–2023 年 2 月.

日本女子大学人間社会学部「社会階層論 I」非常勤講師, 2022 年 4 月–8 月.

一橋大学社会学部「量的データ解析法 I」(社会調査士科目 D) 非常勤講師, 2020 年 4 月–2020 年 9 月.

専修大学人間科学部「統計学実習」(社会調査士科目 D) 非常勤講師, 2019 年 10 月–2020 年 3 月.

専修大学人間科学部「データ分析法実習」(社会調査士科目 C) 非常勤講師, 2019 年 4 月–2019 年 9 月.

ティーチング・アシスタント

東京大学文学部「社会調査」(社会調査士科目 A, B), 2017 年 9 月–2018 年 1 月, 2018 年 9 月–2019 年 1 月.

東京大学文学部・大学院人文社会系研究科「社会学特殊講義」(社会調査士科目 C, D)「社会学特殊研究」(専門社会調査士科目 H, J), 2016 年 4 月–2017 年 3 月.

委員歴

2026 年 8 月–2027 年 3 月 内閣府男女共同参画局「令和 8 年度固定的な性別役割分担意識の解消等に向けた調査研究」調査検討委員会委員

2025 年 11 月–2026 年 3 月 こども家庭庁「出生動向に関わる要因分解及び変動要因分析手法の研究業務」有識者委員

2024 年 1 月–2027 年 12 月 日本社会学会国際交流委員会委員

2023 年 11 月–2024 年 3 月, 2024 年 11 月–2025 年 3 月 内閣府男女共同参画局「ジェンダー統計整備状況調査」検討委員会委員

2022 年 9 月–2028 年 8 月 日本家族社会学会『家族社会学研究』編集委員会専門委員

2022 年 7 月–2025 年 3 月 労働政策研究・研修機構「技術革新によるジョブ・タスクの変化
と労働者のスキル・キャリア形成に関する研究会」委員
2022 年 3 月–2024 年 3 月 日本社会学会『社会学評論』編集委員会専門委員
2021 年 10 月–2022 年 3 月 財務総合政策研究所「仕事・働き方・賃金に関する研究会：一人
ひとりが能力を発揮できる社会の実現に向けて」委員
2021 年 9 月–2022 年 3 月 労働政策研究・研修機構「職業特性に着目したコロナウイルス流
行の雇用・所得と格差、企業経営等への影響に関する研究に係る研究会」委員

所属学会

日本人口学会 (2024 年 4 月–)
Population Association of America (January, 2019–)
International Sociological Association, Research Committee 28 (Social Stratification and
Mobility) (February, 2017–)
数理社会学会 (2016 年 5 月 –)
日本家族社会学会 (2016 年 1 月 –)
日本社会学会 (2015 年 6 月 –)

査読経験

2018 Sociological Theory and Methods (*Riron to Hoho*) (1)
2021 Sociological Theory and Methods (*Riron to Hoho*) (1)
2022 European Sociological Review (1); Japanese Journal of Sociology (1); Japanese
Sociological Review (*Shakaigaku Hyoron*) (2)
2023 International Journal of Comparative Sociology (1); Japanese Journal of Fam-
ily Sociology (*Kazoku Shakaigaku Kenkyu*) (1); Japanese Sociological Review
(*Shakaigaku Hyoron*) (1); Journal of Social Security Research (*Shakai Hosho
Kenkyu*) (1)
2024 Asian Population Studies (1); Demography (1); Japanese Journal of Sociology (1);
Japanese Journal of Family Sociology (*Kazoku Shakaigaku Kenkyu*) (1); Sociological
Theory and Methods (*Riron to Hoho*) (1)
2025 Current Sociology (1); European Sociological Review (1); International Journal
of Comparative Sociology (1); Japanese Journal of Sociology (1); Social Forces (1);
Socio-Economic Review (1); SSM Population Health (1); Nature (1); Population Re-
search and Policy Review (2)
2026 Humanities and Social Sciences Communications (1); Journal of Family Studies
(1); Journal of Marriage and Family (2); European Sociological Review (1); Demo-
graphic Research (1); Japanese Journal of Family Sociology (*Kazoku Shakaigaku
Kenkyu*) (1); Social Indicators Research (1); Socio-Informatics (*Shakai Joho Gaku*)

(1); Population Research and Policy Review (2)